



2015年8月9日

# いま起きつつあること…

高橋哲哉さんの  
平和講演会から



## 日本とドイツの戦後対応

第二次大戦で同盟を組んだドイツと日本との、戦後の歴史認識を比べてみた時、一つの際立った対照がある。かつてナチスドイツが、ポーランドに侵攻してユダヤ人を大量殺戮した時に、ユダヤ人が武装蜂起したことを記念した、「ワルシャワゲットー蜂起記念碑」がある。1970年に戦後初めて西ドイツの首相がポーランドを訪れた時

に、ブランド首相はこの記念碑に花を捧げ、膝をついて追悼した。当時はまだドイツがナチスドイツの犯した罪に対して厳しい批判を受けていたのだが、ユダヤ人に対して、祈りというかたちで赦しを乞う姿は、世界に配信され、そのイメージを変えたと言われる出来事であった。

かたや日本では、戦争責任を否定する政治家の発言が後を絶たない。安倍首相も村山談話を見直したいと発言している。同じ同盟国として戦った日本とドイツの、過去に対する姿勢が象徴的に表れている。

## 安倍晋三氏の歴史認識

安倍首相の歴史認識を見る時に、参考となるのは、安倍首相が尊敬する人としてあげている吉田松陰である。安倍政権下で吉田松陰は、小中学校の道徳教材に取り上

げられるようになった。なぜ吉田松陰なのだろうか。後押ししたのは「新しい歴史教科書を作る会」のメンバーだった人たちからなる、安倍首相とも近い関係にあるグループである。松陰は、戦前の尋常小学校でも道徳教材で扱われた。そこでは「尊王愛国の精神を養うことにつとめ、全国に広めようとした人物」として取り上げられている。尊王愛国を大事にした松陰を立派な人だとすることで、子どもたちも尊王愛国は大事なことだと、間接的に思うこともあ

るだろう。さらに、松陰の思想を顕著に表している「幽囚録」という、獄中で書いた遺言のような書簡を見ると、次のようなことが記されている。まず、当時独立した国であった琉球王国を日本に従わせるべきであると主張し、さらに軍備を拡張しカムチャツカ、オホーツクを奪い、朝鮮を攻め、北は満

州から台湾、ルソン島、果てはオーストラリアに植民地を設ければ、大きな利益がある」と主張していた。まるで、明治維新以降の日本がアジア諸国を植民地にしていったことを、予言しているかのような記述である。おそらく長州藩士を中心として明治政府の要人になった人物になった人たちにも、そのように教えていたのであろう。明治政府は松陰の予言を実現するかのよう

に、大東亜共栄圏まで行ってしまうたようにも見える。この思想は、第二次大戦の戦時下でも『吉田松陰大陸・南進論』という書物で印刷されてお

り、大東亜共栄圏という思想を予言した人として、人格化されていた。この部分をまったく隠したまま、子どもたちに誠実な人として吉田松陰を道徳の授業で教える。安倍政権下で、小学校から中学校の義務教育の道徳教育が、成績を付けられる対象に



2015年8月9日

# いま起きつつあること…

なり、愛国心教育をしたいという安倍政権の狙いに沿ったものとなっている。このことをどのように考えるべきであろうか。

## NHKの報道のあり方

現NHK会長や、前NHK経営委員だった百田尚樹氏の、これまでの発言でも分かる通り、今のNHKを信頼して見ることはできない。1990年代まではNHKも、核心に踏み込んだ客観的な報道をしていたと思う。しかし、わたし（高橋哲哉氏）もコメントーターとして関わった、2001年の慰安婦問題の番組において、当時の経済産業相・中川昭一と内閣官房副長官・安倍晋三氏がNHKスタッフを呼び出して、圧力をかけたとされる「NHK番組改変問題」が起こったことから、様子が変わってきたと思う。

2000年以降、安倍晋三

氏の政治的力が増すと並行してNHKはそうようになってきている。これはNHKに限らず主要新聞社は、どこも同じように取り込まれている、と言っている状況である。

## 真の平和と「グリン」と

武力によって支えられている平和は本当の平和ではない。しかし現実の世界はそうないない。そこで、武力なき世界を夢に抱きつつ、軍縮を進めていくことが今できる本当の平和への一歩ではないか。具体的には、日本は周辺諸国と平和を作っていくかなければ、いつまでも平和ではあり得ない。イスラエルのように周辺国とはぜんぜん信頼関係もなく、いつ戦争になってもおかしくない状況にありながら、遠くのアメリカと同盟関係を結んでいるから安心なのだ、とされていることと日本は似ている。そういうことでは、

長期的に見て日本の安全さえ保障されない。

自衛隊活動拡大の必要性として中国脅威論があるが、必ずしもそれには与しない。中国は国連の常任理事国であるから、国連憲章を守らなければならぬ立場にある。ナチスドイツのようなことをするとは思わない。しかし、脅威を与えているのは確かである。そのような中国と、日本はどのように付き合っていくのか。軍事的に対抗しようとしても、中国の軍拡を招くだけで、まったく無駄なことだ。日本には戦後70年平和国家として歩んできたブランドのようなイメージが、まだ世界の中に残っている。その立場にたって周辺国家と平和を築いていくことができるはずだ。

北朝鮮とも拉致問題や植民地支配の問題を乗り越えて、国交を正常化してやっけていく以外にない。韓国、中国とも問題はあがるが、絶対に武力行使はしない、平和主義でやっていくという原則を基に信頼関係を回復していき、最終的にはアメリカに依存しないで、東アジアの隣人として付き合い合っていかなければならない。

使はしない、平和主義でやっていくという原則を基に信頼関係を回復していき、最終的にはアメリカに依存しないで、東アジアの隣人として付き合い合っていかなければならない。

◆

今回の講演で高橋先生は、今、国会で何が起こっていて、それが日本の将来にどのような影響を与えるのかを、分かりやすく解説してくださいました。また、安倍晋三氏の政治信念が、祖父である岸信介からの系譜であることと、吉田松陰の思想を軸に、この国をどのような国にしていこうと考えているかを、話してくださいました。

この講演をお聞きして、安倍政権をストップさせないと、日本が戦後70年間守って来た、平和国家といえるぎりぎりの線を超えてしまう、という危機感を抱きました。

(中会神学生・和田一郎)